

時事新報

八日發兌の横濱メール新聞

一時八日發行の横濱メール新聞紙は時事新報を評して云く新報は東京の上流社會に行はる、豪奢豪華に對して大に異を唱ふるものなり東京に住み慣れたる者こそ左迄思はざる可けれども二三年も不在にして更に貴府の有様を見る者は上流社會の次第に豪奢に進み建築の

洪洋交際の繁華なる心付かかるはあし天下一般人民の困窮を考ふれば何とか改革を施さる可らず其改革は中央より始めて外に及ぼ也可し云々即ち新報の意見あれども其議論をして重きを得せしめんとするには今少く明白に吉ふ所のものなり可らず豪奢を憂るは

の節食にて善しと雖ども地方の困窮を救へんとして首府上流の傳給を半減するも何ほどかの事ある可たりや斯の如くして租税に何の影響ある可たりや全く無益の談よりて所開東京人の奢侈と輕重するふ足らず吾一メール記

者)の見る所にては徳川の時代に年々首府にて費した
る金高は今日よりも多かる可しと思ふ者あり

これは敢て挑戦するに非ず又豪奢の事を賛成するにもあ
りざきとも唯大喝一聲を鳴らして役人の俸給あと漁家
たりとて大海の一滴何の益する所もなしと云ふに過た
を全く數理外の議論にして我輩が之を丁解せんにハ今
少しく立直の明白あると願はざるを得ず良しや其漠然

新報の持論は都て政費を節せんとする者より傳給の
さば其形ふ現はれたる一項を例に示したる迄の事な
官吏の數を減すれば自から政務は繁文と省き不急の
業と止るに足る可否俸給既々減して八員又少なし八

筆文の煩しきを免れて政府の筋に不急に事業を起す其益の少なからざるはメール記者も我輩と共に保する所ならんと思ひの外豪奢苦乏からずと云はねばりの筆法は我輩自國の爲先に謀りて聊々不平などをメーリー記者は知らずや我日本國は先づ農業の國に

て専ら米作に依頼するものなり官吏の俸給輸するに
らずと云はるれども爰に年俸三千圓の一官吏あれば
石圓圓の米價にして七百五十石即ち千八百七十五俵
空ふするの勘定なり今農民社會ふ千八百俵の得失は
に一村なるず一郷一部の喜憂なる可し是等の事務又

敵あがら外國人の知る所にあらず況んや世界の富國大英の紳士メール記者に於てそや他に身代を氣樂傍観する者と云ふべし本國に居てハイサ知らす日本國中は少しく其論鋒を緩にして我國人を酷打せしむ

我輩唯驚くに付我輩は今日に消費却て徳川の時より大ありと思ひ自かよ其事實を示すに苦しむすと雖ど其數の論は姑く置いてメール記者の言の如く果たて川時代で丈大にてまつ

れば今の著者を評するに口實とするに足る可きや風
がガウトよりも好しがウトは肺病よりも好しとて人
魔邪ガウトをうがへざるものある可さやメール記者は
川時代の肺病を抵當にて今の東京のガウトを祝す

八親王 よハ駕務を奉
出發されたるよし
宮の御息所 故三品間
づ爲め豆州新海へ赴か

- の無窮を歎する者あり

電報

○火薬ダイナマイトの盜難 長崎十月八日午後特發
佐世保は火薬ダイナマイトの窃盜は未だ縛る就くす
かし其後ハ更ニ異狀と聞かず

○其進會、銀親會 仙臺十月九日午後特發
本縣知事松平正直氏ハ今日よりイワイチ山に開く産馬
共進會に臨む爲め同地へ出張せり

○石黒福井縣知事 福井十月八日午前特發(不通延着)
當福井縣知事石黒務氏は今朝歸縣せり

○中井知事、大風雨 大坂十月八日午前特發(不通延着)
滋賀縣知事中井弘氏は昨夜長濱泊り今日彦根共進會へ
臨む筈あり

○今朝三時頃より大風雨にて琵琶湖上にて汽船一般破損
したり

○褒賞授與式 大津十月九日午前特發
今日彦根共進會の褒賞授與式を執行しあり

○佐久間司令官 仙臺十月八日午後特發(不通延着)
佐久間仙臺司令官は今日出發上京せり

○知事歸縣 招魂祭 廣島十月九日午前特發
當縣知事千田貞曉氏は昨夜歸縣す

○褒賞授與式 大坂十月九日午後特發
當廣島鎮臺にて昨今両日招魂祭を施行せり

○クラブ、霖雨 丸龜十月九日午前特發
昨日丸龜クラブの開部式を行ひたり

○打續きたる連日の雨天にて諸川出水せり

○畿内出水 大坂十月九日午後特發
當大坂府下は去る五日より霪雨降り續け今日漸く降り
止みたり爲めに淀川其他の川々は満水し両岸に溢れ和
河、泉、攝四箇國の川より堤防の破壊七箇所溺死二名あ
り淀川筋大坂にて出水九尺、大和川は一丈二尺爲めよ
近廻りの綿作は大害と被り米作り亦損害少なからず郡
區吏警官を始め徹夜にて東西治水に奔走せり

○暴風 松山十月八日午後特發(不通延着)
昨夜暴風甚だ強し

○佛國と馬鷲の關係 倫敦十月六日發
馬鷲の政府とアンダナヘリヴオは佛國駐在官の關係
係は近頃穩うならざる有様とあり同駐在官は國旗を
下ろして同地を退去したり (ジャパンメール)

○二品能久親王 よの職務を帶び一昨八日演習巡視と
して近縣へ出發されたるよし

○故華頂宮の御息所 故三品博經親王の御息所に一昨
九日療養の爲め豆州熱海へ赴かれたるよし

○宮廷録事

○三公使の出發 獨逸國柏林駐在の西園寺公使同公使
館附吉川舊記官、壇國維納駐在の古田公使同豊田交際
官試補、伊國羅馬駐在の徳川公使同周布參事官の諸氏
ハ一昨八日午前九時二十五分新橋別仕立の汽車にて孰
れも任地へ向けて出發したり右に付き當日は伊藤臨時外
務大臣大山陸軍大臣、坂本延信大臣青木外務次官其の
他諸省の勅奏任官元老院議官諸華族同種士人等二百五
六十名同列車にて横濱まで見送り又松方大藏大臣山田
司法大臣其他數百名の人には新橋まで見送りたるにて同
所は一時出入り出来るほどの大混雑ありし横濱にて

○大河内輝剛氏 廣島縣師範學校長なる同氏は該學校
の監督に轉じる海軍第四等技師會補達成氏は來る十五
日任地長崎へ向々出發するといふ

○外務省は事務外務者はその字義の如く専ら外務に
當る官衙にして外交外務念なきもの、様思はるれど
も時と場合とに依りては種々内務の事柄をも取扱ふも
のと見え體へば法律編纂委員會の如きもその一例にて

元來今日本の立法權論、内閣に屬す可き事務を終に外務省中に其委員もあれは條約改正の中では如何成り行く者うるゝ省る法律の編纂とは些ちるものには何ぞり鑒に思ふ築局總裁を兼てその事務の轉職と共に轉務して内便利の事共ならん次に通り報告し居れども從前来るものと外務省に於て殊に方今は農商務省と云省あれば多分是等もそのあたり兎に免日本の外務其局又當る人は多用れる臣は之を謝絶して三田小丘裏手ある大藏大臣秘書商務大臣の官舎へ充てたれば讀者の一讀を得た始末及び其差止の次第〇朝鮮公使派遣の始末其準備も既に整ひ去月二及び倫事長等へ今度司法より夫々出京と命ぜざる事加納謙氏は去る五日、函六日、大坂控訴院長兒嶋義國醫某は朝鮮政府へ「貴國へ公使派遣の一事を宜使節を外國又派遣するに直接に諸外國政府に對面し、那公使の紹介を經て外國政府の手より外國政府より呈し、那公使に面會を求むる時、票を差出さしめ又何れ公使に之を承諾して益々朝鮮政府に之を承認するより先般決定され慢無禮を憲へ朝鮮政府の手より外國政府に對面し、那公使は此議と採用し、同國王は今度爲言辭は所謂審問體を用ひ、京の總理衙門は此議と採用し、同國王は今度爲言辭は所謂審問體を用ひ、